

北村源三とその仲間たちによるトランペット・リサイタル

ピアノ：長尾洋史

1部

トランペット協奏曲 変ホ長調……ネルーダ

2本のトランペットの為のソナタ…ガブリエリ
(1st 小木曾 2nd 塚本)

ピアノ独奏

月の光……………ドビュッシー

子供の領分より1・5・6…………ドビュッシー

あなたの声に心は開く…………サン＝サーンス

2部

聖エドモンズベリーのファンファーレ…ブリテン

トランペットとピアノの為のソナタ…………ピルス

ピアノ独奏

3つのノヴェレット……………プーランク

間奏曲 変イ長調……………プーランク

マジック・トランペット……………パーク

カノン……………パッヘルベル

冬

1997 四季コンサート ふれあい音楽会

1997年11月28日(金) 6:45PM

会場：浜松市教育文化会館

主催：浜松音楽友の会

プロフィール

北村源三 (トランペット)

1937年京都生まれ。市立上京中学時代にトランペットを始める。市立堀川高校音楽科を経て東京芸大に入学。金石幸夫、中山富士雄の両氏に師事。同大3年在学中に第27回毎日音楽コンクール第1位入賞。1960年同大卒業と同時にNHK交響楽団入団。1962年、オーストリア給費留学生としてウィーンアカデミーのヨゼフ・レボラ教授に師事。65年に帰国し現在にいたる。77年、第1回リサイタルを開催。81年「東京トランペット・クワルテット」を結成。国立音大助教授、東京芸大講師として後進の指導にもあたり、日本の若手トッププレイヤーの多くが彼の影響を受けている。

長尾洋史 (ピアノ)

東京芸術大学卒業後、1988年同大学院修了。在学中に安宅賞受賞。宗広祐詩、遠藤道子、米谷治郎の各氏に師事。これまでに国内オーケストラをはじめ、ミシェル・ベッケ(Tb.) ジュリアス・ペーカー (Fl.) 等海外著名管楽器プレイヤーと多数共演。またCDレコーディングも多く、ジャン・イヴ・フルモー(Sax)、M.ベッケ等とも共演し、常に高い評価を得ている。ソリストとしても東京都交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団等と協演。第1回浜松国際ピアノ・コンクール5位。東京芸術大学弦楽科伴奏助手を務める。

柴田豊一 (トランペット)

信愛学園高校音楽科(現浜松学芸高校)卒業
東京芸術大学音楽学部器楽科卒業
浜松学芸高校音楽科、吹奏楽コース トランペット講師

小木曾聡 (トランペット)

信愛学園高校音楽科(現浜松学芸高校)卒業
国立音楽大学器楽科卒業
群馬交響楽団 トランペット奏者

塚本圭司 (トランペット)

信愛学園高校音楽科(現浜松学芸高校)卒業
国立音楽大学器楽科卒業
フリーランス トランペット奏者

北村源三とその仲間たちによる
トランペット・リサイタル



GENZO KITAMURA
TRUMPET RECITAL

●ネルーダ／トランペット協奏曲 変ホ長調

ヨハン・バプティスト・ゲオルグ・ネルーダ (1707頃～1780頃) は、ドイツで活躍したチェコのヴァイオリン奏者、作曲家である。多くの交響曲、協奏曲などを作曲しているが、このトランペット協奏曲が現在取り上げられる唯一のものである。原曲はホルン・ダ・カッチャ (狩りのホルン) のために書かれており、前古典派に近い作風の簡潔なスタイルの協奏曲である。

●ガブリエリ／2本のトランペットの為のソナタ

ドメニコ・ガブリエリ (1659～1690) は、イタリアのチェロ奏者、作曲家であり、特に演奏家としてのガブリエリは「偉大なるチェロ弾き」の異名をもつほどの腕前だった。作曲家としての彼の作品は、全体としてみれば第一級のものではないが、機知や創意も見られ美質も多く備えている。このソナタは、イタリアのパロッド・トランペットのために書かれた曲である。

●ドビュッシー／月の光・子供の領分

フランス印象派音楽の巨匠クロード・ドビュッシー (1862～1918) の作品より、4曲からなるピアノ曲集「ベルガマスク組曲」より「月の光」。幼い娘エマのために作曲したピアノ組曲「子供の領分」より「グラドゥス・アド・バルナッスム博士」「小さな羊飼ひ」「ゴリウォーグのケーキウォーク」。新しい響きを追求した繊細なリズムと音楽感はドビュッシーならではのもの。

●サン＝サーンス／あなたの声に心は開く

近代フランス音楽の基礎を築いた作曲家サン＝サーンス (1835～1921) の、1877年に初演された代表的なオペラ「サムソンとデリラ」からのアリアである。旧約聖書を題材とする英雄サムソンの物語の第2幕で歌われるこのデリラのアリアは、サムソンへの愛を告白する美しく官能的な旋律で、このオペラの中で最も広く親しまれている。

●ブリテン／聖エドモンズベリーのファンファーレ

イギリスの作曲家ベンジャミン・ブリテン (1913～1976) が1959年に聖エドモンド大聖堂の墓で開催された野外劇の為に書いたファンファーレであり、3曲の異なるファンファーレを3人の奏者が続けて演奏した後、最後に3曲が組み合わせられ同時に演奏される。またブリテンは、この曲を演奏する際は3人ができるだけ離れて演奏しなければならないと記している。

●ビルス／トランペットとピアノの為のソナタ

カール・ビルスは我が国ではあまり知られていないが、1902年にウィーンで生まれたピアノ奏者兼作曲家である。彼は室内楽をはじめとする多様なジャンルにわたって多くの作品を残しているが、中でもウィーンフィルのトランペット奏者であったヘルムート・ヴォービッシュのために書かれたこのソナタは、演奏頻度の多いものである。

●プーランク／3つのノヴェレット・間奏曲 変イ長調

フランシス・プーランク (1899～1963) は、フランスの作曲家であるが、自身優れたピアノ奏者であったため、ピアノのための作品を非常に多く残している。そんな彼の作曲したピアノ曲は、気どりのない優美さやリズムで茶目っ気のある、いかにもプーランクらしい、軽妙で心地良いフランス的魅力にあふれる曲ばかりである。

●パーク／マジック・トランペット

ジェームズ・パークは、1923年にニューヨークで生まれたアメリカのトランペット、ホルン奏者である。また、数々のバンドやオーケストラで活躍するかわり、軽いリズムを用いてホルンやトランペットのための小品を多く作曲しており、この「マジック・トランペット」もビギンのリズムの軽快な音楽である。

●バッハ／カノン

ヨハン・バッハ (1653～1706) は、ドイツバロック期を代表する重要な作曲家の1人であるが、とくにオルガン・コラールの領域ではすぐれた作品を生み、バッハにもおおいに影響をあたえた。「カノン」の原曲もオルガンのための作品だが、本日はトランペット4本とピアノのために編曲されたものが演奏される。